



414
A1307



奉冬議大隈公書

秋田縣士族千五百六名、倭代國振等預首預首
謹テ書シ冬議大隈公閣下ニ奉ル伏ニ唯ミルニ維新ノ
徳化普ク海宇ニ布キ雍熙ノ俗既ニ遍ニ及ブ然
リ而シテ天子仁聖民ヲ視ル憐カカシ萬機ノ繁
民庶ノ衆キ政化猶ホ壅ル所アリテ一夫ノ或ハ其
廢ニ漏ル者アリシ一ヲ懼レ明治以降屢々而
盛曲ニシ譽ケ以テ親シク民瘼ヲ問ハセラル
令ニ則テ鸞輿北巡辱クモ本縣ニ降臨セラル
ノ榮ヲ蒙ル倭代國振等誠惶誠恐預首預首
敢テ西復載ノ恩ニ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



感シ日夜以テ聖慮ニ懸シテ勤メサランヤ作本
縣秋田ノ地タル東北ノ隅ニ僻在シ崇山峻嶺四境ニ聯ナリ
風氣沍寒堆雪動モスレハ二季ニ彌ル故シテ人智開進
スルコト漸ク生計随テ貧シ加フルニ成后摧殘ノ餘ヲ承テ
瘡痍漸ク瘳ルト云モ尚ホ未タ回觀ニ復セサルヲ以テ伏シ
テ懼ル覽觀ノ際以テ敬慮ゾ慰ムルニ足ルモノ寡ナ
クシテ悩マシ奉ルモノ多キヲ今ヤ國縣人民此開闢
未曾有ノ盛譽ニ遇ヒ惟鼓舞謹呼シ充弱相率
テ公簞食土壺漿シテ以テ鸞輿ヲ奉迎セサルナシ則
チ後代風俗等同族ニホテ尤モ聖恩ノ極リナキニ感

泣シ其レ如何ニカ宸襟シ安ニシ奉ルヘキ日夜之レヲ
謀慮スル猶ホ及バサランコトヲ恐ル是レ臣子ノ情自ラ已
ムコト能ハサル所ナリ然リテ後代風俗等寧モ黙ヒセン
ト欲シテ黙ヒスル能ハサル者アリ謹テ之ヲ左ニ陳述ス
伏シテ願クハ閣下幸ヒニ哀憐ク垂レ之レシ

聖慮ニ達セラレシコトヲ抑旧秋田藩士族ノ祿制タル一
種異類ノモノニシテ各自所有ノ祿高之ヲ各々テ當高
トス高百石ノ米穀實際六十五石一斗二升及ヒ小役銀ト唱
ヒ銀二貫五百十一匁二分ツトナルノ制ナリ而シテ該祿制ナ
ルニモ拍ハラス先年國用困乏ノ際給與高ノ内ヨリ其

幾分ヲ借上テ用テ補ヒシマリ然ルニ洋艦渡來
蝦夷地警衛後お債キ四六ノ割合ヲ以テ六割ノ定借
上ニテ藩士一同頗ル疲弊シ極メタル折柄成后ノ役當
縣獨リ勤王ヲ以テ奥羽ノ間ニ孤立シ夥多ク官軍輻
湊ノ場ト相成嘗ツテ所畜ノ金穀與テテ當時耗
費スルノミナラス四境兵燹ニ罹リ殆ント不可為ノ慘
狀ニ陥リシ以來又郵次ノ廢棄等々毎ニ一層ノ困難ヲ
増加スルノ状ニ至リ各狀スヘカラサルモノアリ然ルニ明治
四年置縣ノ制立テラレ至仁ノ所振意ヲ以テ藩債亦處
分ノ法ヲ設ケラレタル府地方政廳ニ願フニ右借上高

所返付請求ノ件ヲ以テセリ而當時願者上達ス
ル能ハサルモノ別紙を續書ニ詳悉スルカ如シ且ツ旧藩中
該借上高返付ノ例規アルハ藩士居室類焼ノ災ニ罹リ
タル際ニ於テ明瞭ナルノミナラス差江向成后兵燹ニ罹リシ者
ハ於大藏省處分セラレシ的例モ有ニ旁三面迄歎願
ニ及ト金モ願意上達セズ都々却下ニ相成遺憾措ク能
ハス退イテ思惟スルニ飢寒月夜ニ迫リ子ヲ棄テ死シ
候ノ外無之故ヲ以テ枉ケテ願者ヲ就産金拜借ノ
点ニ移シ恩裁ノ下ルヲ俟ツル半歳ノ久シキヲ毎本年
六月下旬ニ至リ詮議ニ及ハサル旨達セラレタリ於是乎

一同失望恐愕ノ餘り尚又協議ニ及ヒタル儀ハ從來
私共ノ請願タルヤ突然お借金ヲ歎願スルニ非ス拆藩
債而處分法ニ基キ數回之願ノ旨趣受理セラレサルヨリ
就產金お借ノ点ニ願意ヲ轉シ眞産就業ノ実効ヲ
建テ林骨再ヒ肉ヲ生シト決心致シタル事ニテ又更ニ他
策ノ生泳ヲ求ムル途ヲ知ラス依ニ前後シ願ニス朝夕
支ヘ難キノ家産ヲ擲テ尽シテ以テ地下ニ瞑スル克サル
ノ苦難ヲ脱セシト謀リ相集リテ今又再應歎願ニ及ヒ
タリ然ルニ今ヤ 廢島興廢クモ北阪僻遠ノ本地ニ
臨ミ親シク民ノ苦難ヲ問ハセラレ閣下亦輔賛ノ職ヲ

以テ供奉ニ在リ是レ實ニ小人等事ヲ状ヲ致シテ願
旨ヲ上達スヘキノ至運至幸ト云ハサルヘカラス小人等素
ト世祿慣習ノ久シキニ賴リ夙トニ勞動自食ノ途ニ就
カサルヲ以テ今日斯ノ慘苦陥ルト云モ積年承過分
ノ借上高アルヨリ大ニ疲弊ヲ極メタル際頻リニ制度ノ
沿革ニ随ヒ不幸ヲ重サンニ連退維谷父子兄弟途上
ニ呻吟スルノ窮況ヲ促シタル事狀深ク同情察被
降別紙副申ノ趣旨共催セラシテ聖德ニ達セラ
レシテヲ悃請ス小人等願旨ヲ達スルノ情切ニシテ
忌憚ヲ願ヒルニ違ナク不學拙文ニシテ尊威ヲ冒

漬スルノ罪ヲ避クルニ暗シ伏而斧鉞ノ罪ヲ俟ツ誠
惶誠懼頓首頓首

顛人千五百六名總代

明治十四年九月
秋田縣羽後國南秋田郡長野町
二十二番地

士族 田代 綱振

同縣同國同郡同町
五番地

同 安東 半助

同縣同國同郡本町四丁目
十番地

同 岡 拙藏

同縣同國同郡中尾町上丁
十七番地

同 伊藤才治

同縣同國同郡横山古川新町
八番地

同 小泉吉太郎

同縣同國同郡土手長町中丁
二十八番地

同 小貫頼武

同縣同國同郡字元西新町
三十七番地

同 加藤敬吉

同縣同國同郡上肴町
二十六番地

同 小室孫一良

冬議大隈公閣下

小室一書

小室一書

小室一書

小室一書

小室一書